

日文研コレクション

描かれた「わらい」と「こわい」展 —春画・妖怪画の世界—

2018年10月16日火～12月9日日



Shunga & Yōkai

Depictions of “Laughter” and “Fear”: The Illustrated World of

◇主催挨拶



細見美術館
館長 細見良行

このたび御縁あって、<日文研コレクション 描かれた「わらい」と「こわい」>展を開催させていただくはこびとなりました。

細見美術館では2016年に「春画展」を開催し、お蔭さまで多くの来場者を迎えることができました。

今回は日文研のご企画により、「春画」に加えて「妖怪画」という、近年、内外ともに人気の高いジャンルとの出会いが実現しました。かつてこれらは、アンダーグラウンドであったり、大衆的な表現媒体と考えられることが多く、美術の分野に限っても、主流としては捉えられてきませんでした。しかし、その奥には日本文化の実に豊穣な魅力が秘められています。今回は、これらを「境目のあいまいな世界」として、「わらい」と「こわい」というキーワードで繋ぐユニークな視点が興味深く感じられます。

文化庁の京都への本格移転も間近となりましたが、日文研が30年以上前に日本を代表する学際的研究機関として京都に開設されて以来、積み重ねてこられた収集と研究の成果を広く一般に紹介する場として、細見美術館が参画できますことを意義深く思います。関係者のご尽力に感謝申し上げます。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
所長 小松 和彦

昨年、創立30周年を迎えた国際日本文化研究センター(日文研)では、特色ある研究資料の収集に努めてきました。海外で刊行された日本研究書をはじめ、世界でも有数のコレクションライブラリーになっているのではないかと自負しております。日本文化を知る上では欠かせない春画についても、貴重な資料群を誇り、海外で高い評価を受けています。また、1997年頃からは妖怪を文化として捉える共同研究を進め、妖怪に関するデータベースの構築と同時に、妖怪画等の資料も収集してきました。一見対極にあるように見える春画と妖怪画ですが、展示作品の中には、二つの要素を合わせもつ「妖怪春画絵巻」という興味深い初公開資料も含まれています。今回は、日文研の所蔵コレクションのみで構成する初めての展覧会であり、日文研を広く知っていただく良い機会だと思っております。ただ一つ、お子様たちに観ていただけないことは残念ですが、大人が楽しめる展覧会となれば幸いです。

国際日本文化研究センター



昨年創立30周年を迎えた、日文研の名で親しまれている国際日本文化研究センターは、1987年日本文化に関する国際的・学術的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的に設置されました。

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
TEL 075-335-2222 FAX 075-335-2091
<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」

◇開催趣旨

中世から近世にかけて、日本人は絵巻や浮世絵で日常のなかの目に見えるもの、あるいは形なきものを視覚化してきました。日常の「表と裏」、「この世とあの世」。そこには今以上に境目があいまいな世界が広がっています。

本展覧会では、国際日本文化研究センターが現在所蔵する妖怪画・春画のコレクションより精選された約150点を通して、「笑い」と「怖い」という一見相反するテーマのもと、恐怖と笑いが地続きで繋がる前近代の豊かな日常をみていきます。

※掲載の作品はすべて国際日本文化研究センター所蔵

みどころ

● 初のコレクション公開！

本展では、創立初期より収集・保存をされている春画と妖怪画のコレクション750余点より精選された150点をご覧いただける初の機会となります。

● 世界初公開作品「俳諧女夫まねへもん」が登場！

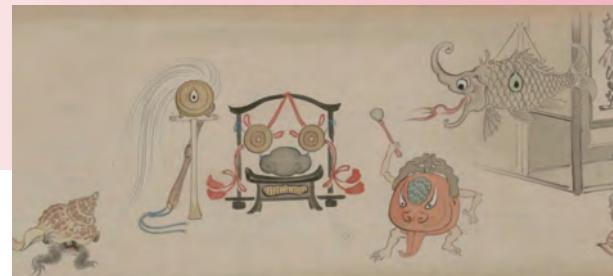
浮世草子・浮世絵の題材・画題として描かれてきた「豆男もの」の一つである本組物は、仙薬などによって体の小さくなったり男女が、様々な閨房（寝室）をのぞいて色道修行をする趣向で描かれた鈴木春信「風流艶色真似ゑもん」の続編です。伝存数が少なく、全24図のうち、図版掲載されたものが15図、所在が明らかなものはわずか8図。本展では今回、所在が明らかになった3図を含む4図を展示。そのうちの2図は研究書にも図版掲載がなく、初公開となります。

● 日文研の妖怪画の魅力

怪異・妖怪の造形図像は、日本文化の歴史において重要な役割を果たしていました。しかし、これらの資料は長らく学術的な場から見すごされてきました。日文研では他の研究機関にはあまり収蔵されていない妖怪画を日本文化研究の基礎資料として積極的に集めてきました。描かれた妖怪はこわくもあり、ユーモラスなものもあります。



福田太華(写) 「長谷雄草紙」(部分)



山本光一 「滑稽百鬼夜行絵巻」(部分)

◇基本情報

展覧会名：日文研コレクション
描かれた「わらい」と「こわい」展—春画・妖怪画の世界—

会期：2018年10月16日(火)～12月9日(日)
展示替有り。※本展は4期にわかれています。

1期 10月16日(火)～10月28日(日)
2期 10月30日(火)～11月11日(日)
3期 11月13日(火)～11月25日(日)
4期 11月27日(火)～12月9日(日)

開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時まで)
※毎週土曜日は午後8時まで開館(入館は午後7時まで)

休館日：毎週月曜日

入館料：一般 1,500円(1,400円) ※()内は20名以上の団体料金

【プレイガイドチケット 1,400円】

販売期間 10月16日～12月9日
販売窓口 京都新聞文化センター
取扱プレイガイド (セブンチケット・ローソンチケット Lコード57591)

【前売チケット 1,300円】

販売期間 9月6日～10月15日 ※美術館は10月8日迄
販売窓口 美術館
京都新聞文化センター
上記取扱プレイガイド

主催：細見美術館 国際日本文化研究センター 京都新聞

広報協力：MBS

協力：青幻舎プロモーション

会場：細見美術館
京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 <http://www.emuseum.or.jp>
TEL 075-752-5555

特記事項：**18歳未満入館不可**

※年齢のわかるものをご提示頂く場合があります。

北斎季親「化物尽絵巻」(部分)



◇展示構成

イントロダクション

「春画」といえば、あるいは「妖怪画」といえば、どのようなイメージが浮かぶでしょうか。人の性を描くもの、異形や怪異を描くもの。一見、この二つは全く異なるものとみなされるかもしれません。しかし、春画や妖怪画をながめていると「わらい」と「こわい」という言葉が浮かび上がります。

性を誇張して書き出す春画には思わず笑みをこぼしてしまうこともあります。また時に春画は人の死をためらいなく書き、見ている者に「性」とは「死」とは何かを突きつけます。

それは妖怪画についてもいえるでしょう。人々を怖がらせる鬼や幽霊も、人と同じように振る舞って笑いを誘う妖怪も多様な「妖怪画」の登場人物たちです。

「わらい」と「こわい」は相反するもののように思えますが、それらは表裏というよりは隣り合わせに存在するようにも思われます。人は自分の理解、知識、常識の範疇から大きく外れたものに出会った時、思わずわらってしまったり、あるいは恐怖を覚えたりするのではないかでしょうか。

地続きに広がっている春画と妖怪画の世界をどうぞお楽しみください。



ようかいえまき
[英一蝶] 「妖怪絵巻」(部分)
《1期》

生、性、死

人はどのように生まれ、生き、死んでいくのか。人生の様々な側面を、人間、動物、幽霊などとの交わりからみていきます。



はせおぞうし
福田太華(写)「長谷雄草紙」(部分)
《3期》《4期》



えほんかいちゅうかがみ
初代歌川豊国「絵本開中鏡」(部分)
《1期》《2期》

復讐する幽霊／退治される妖怪

幽霊・妖怪は日常に潜むもの。一方で、猛々しい武者たちによって劇的に退治される存在もあります。そしてときに妖怪退治の絵は、春画にも題材を提供していました。

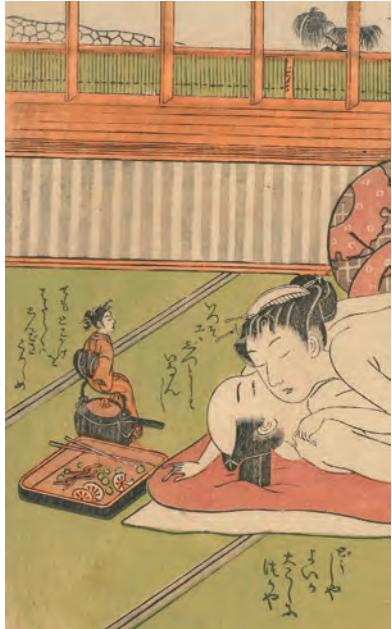
不思議な生き物／おかしな生き物

妖怪、春画には空想を含め多様な生き物が描かれています。その愛らしい、あるいは奇妙な姿をながめていきます。

ばけものづくしえまき
北斎季親「化物尽絵巻」(部分)
《1期》《2期》《3期》《4期》



古来、日本における性と信仰の結びつきは強い。また、病や災い、あるいは地獄といった見えないものを視覚化した絵画も多く描かれました。ここでは様々な信仰の様相が垣間見える表現を紹介します。



わらい／戯れ

現代の私たちにとって意外かもしれません、日本の春画には「笑い」があふれています。性にまつわる滑稽な人間のやりとり、誇張された性器、古典や現代文化を題材にしたパロディ。読者を笑わせる方法はバラエティに富んでいます。ここでは、妖怪画にみられる笑いも紹介します。

磯田湖龍斎「俳諧女夫まねへもん 九」(部分)
《1期》《2期》

おもちゃ絵 —妖怪で遊ぶ、性で遊ぶ

幕末になると子ども向けに様々な玩具絵が作られ、その中で妖怪は人気のモチーフの一つでした。さらに、そのフォーマットを応用して、大人向けの玩具絵も登場します。



真野暁亭「東都千社納札大会披露」(部分)
《3期》《4期》

春画復刻プロジェクト

日文研では、江戸時代の春画を現代の職人達が復刻するプロジェクトも進行中です。ここでは、春画を切り口にして伝統と現代を結ぶ日文研の活動を紹介します。



報道関係者お問い合わせ先

「描かれた「わらい」と「こわい」展」PR事務局

(TMオフィス内)

担当：馬場（ばんば）、石原

TEL : 06-6231-4426 FAX : 06-6231-4440

e-mail : nichibun@tm-office.co.jp



[英一蝶] 「妖怪絵巻」(部分)